
...明日への風...

舞依

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

… 明日への風…

【Nコード】

N 8 1 4 7 C

【作者名】

舞依

【あらすじ】

幼なじみの唯と棗。ある日唯に彼氏ができて…。

君が優しく笑うから この世の全てに色がついて。

君が愛してくれるから この世の全てが綺麗に思えた。

その何もかも…ずっと俺が守っていききたい。

〈恋愛純華〉

唯『^{なつめ}棗、おはようッ！……！……！……！』

棗『ああ…唯か』

唯『ああ…って何さ、ヒドくない……！……？……？』

1日のいつもの始まり…この桜の木の下で俺と唯は挨拶を交わす。

お前は変わらずあの笑顔を俺に向ける。

お前は知らないだろう

その笑顔を見るたびに…俺は苦しいんだ。

棗『唯…悪い、古文のノート見せてくんねえかな』

唯『…課題、忘れたんでしょ』

そう言いながらも唯は渋々ノートをカバンから出す。

こう見えても、頭いいからな。

いつもテストは学年10位以内の常連。

俺とは正反対の唯。

気が強くて芯が強く、少し神経質。

所属しているテニス部では部長を務めている。

偉いよな、お前は…

どんなに辛くても苦しくても…いつでも笑ってるんだから

その笑顔が…本物なのか俺は心配なんだ。

笑ってるはずのお前が…苦しそうに見えるんだ。

（放課後）

唯『棗、ゴメン…今日さ、先帰っててくれないかな?..』

棗『ああ、いいけど?..何で?..』

幼稚園からの幼なじみの俺等、家は徒歩2分の距離。

中学2年の今…幼なじみ歴は目下更新中。

親からは『唯ちゃんを守れ』って言われてる。

唯は強いから…俺が守らなくなっっていいんじゃないかと想う。

先帰ってて…唯は今日部活ないんじゃないかったのか?

唯『あ…えとっ…』

唯は顔を赤らめて下を向いた。

…これが、唯???

こんなに恥らう唯を見るのは…はじめて。

こんなにコイツ、女みたいな表情するか???

唯『先輩…と、デートするんだっ』

——で、デート??????

棗『唯…彼氏いんの??』

よっぽど恥ずかしいのか、唯は林檎みたいに顔を真っ赤にしてコクツと1回頷いた。

ま、まじ??

棗『いつからだよ??』

唯『昨日から…//』

昨日!!!!??????

だから昨日は、アイツらしくなかったのか。

何か挙動不審で、しどろもどろで…

棗『先輩って、一樹先輩か??』

唯『う、うん／＼／＼／＼／＼／＼／＼／』

前から、憧れてたもんな、唯…。

棗『…そっか、じゃあ楽しんでこいよ』

唯『うんっ…!!』

嬉しそうに微笑んだ彼女は…恋している、瞳だった。

帰り道、久々に空いた俺の右側。

そっか、アイツにも…彼氏できるんだ。

もうあの頃の純粋な唯じゃないのか…。

今ごろ唯は…また笑ってるのか？？

…唯の両親は、唯が4歳の頃、離婚した。

唯はお母さんに引き取られたが、お母さんは病気がちで今は入院してる。

だけど唯は…

両親が離婚したときも、独りで過ごした夜も…

決して涙は流さなかったんだ。

それから唯は毎日のように先輩とのデート。

俺は暇だったから適当にクラスの奴らと遊ぶ毎日。

だけどどこか物足りなくて…

俺はクラスメイトの香凛に告られたけど、断った。

今日は久々に、唯との放課後。

一樹先輩は…塾に入ったらしい。

まあ3年生だしな、塾に入っていないほうが少ないか…。

唯『今日は棗と久々の放課後だね』

棗『そうだな…』

唯『——棗、変わっちゃったね』

——唯が放った言葉。

棗『…え?？』

今日は風が強く、唯の長い髪が摩く。

俺が…変わった？？

唯『あたしの知らない人みたい。』

何を言ってるんだ？？

唯の、涙。

はじめて見た…唯の涙。

棗『唯…』

唯『っ——棗ごめんね！…！』

唯は走っていった。

俺はただ、立ち尽くすばかりだった。

何が起こったんだ??

『唯ちゃんを守ってね』

この言葉が誓いなら...

今、俺が唯を守る時なのだろう。

唯——

俺が唯を見つけるのに時間はかからなかった。

2人が幼稚園の頃、毎日のように遊んでいた公園。

そこに、うずくまった彼女がいた。

棗『…唯』

彼女の名前を静かに呼ぶ。

彼女の背中が微かに震えた。

そして、ゆっくりと顔を上げた彼女。

その顔は涙でグシャグシャで…。

棗『唯、どうしたんだよ??.』

そつと問いかける。

唯『あだすつ…なづめがああつす、好き』

涙で途切れ途切れな彼女の言葉…

棗『え??.』

俺が好き??唯が??

唯『小学校の時からああずっとずっと好きだった…!!!!』

今にも折れそうな細い腕でギュツと俺にしがみついた。

俺はそんな唯を…強く抱きしめる。

唯『唯ねっ…本当はずっと怖かったよおお…お父さんいないし、ずっと夜は独りで…』

ただ俺は唯の言葉をひとつひとつ受け止めて頷く。

唯『だけど棗はそんな唯の傍にいてくれた…』

唯は…唯は強かったんじゃない、ずっと弱さを隠してただけ…。

本当はずっと泣きたかったんだ…。

唯『一樹先輩の事は…憧れだった、棗の事諦められるかなって想って付き合ったの』

じゃあ…あの赤らめた顔は演技だったのか？

棗『…そっか』

唯『で、でもやっぱね…棗が好き…諦めらんないよお』

弱弱しく笑う唯。

唯『その間も…棗はクラスの人と遊んで、あたしが知らない人になっちゃったみたいで…後悔した』

震える体を支えるように抱きしめる。

唯『本当は棗が好きだったあ…今もずっと…ずっと』

ギュッ

強く強く唯を抱きしめる。

棗『もう泣いていいんだよ唯…！！俺がお前を受け止めるから…辛
いトキまで笑うなよっ』

唯は一瞬笑って…泣いた。

涙が枯れそうになるまで、ずっと泣いた。

俺はこの感情を…愛だと確信した。

棗『好きだ唯…俺もお前が好きだ』

唯の顔を俺の顔の前にやる。

涙ぐんだ唯は凄く綺麗で…可愛くて。

キスをした。

その時の唯は…確かにココロから笑っていた。

また今日も一筋の風が吹く。

明日への風。

（後書き）

少し、本文の方で矛盾していた部分があったので、訂正しました。
（10月10日）

初めての短編・男視点からの話で書いて楽しかったです!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8147c/>

...明日への風...

2010年12月4日01時27分発行